

餌の質としてのブラックバスの栄養分析

土屋 健児 (名城大学大学院)

研究目的

食べるという行動は生命をつないでいく上で欠かすことができず、ある鳥類がいつ、どのような食物を、どのくらい食べているのか、を知ることは、鳥類の生態を理解する上で重要な一面をなしている(松原 2002)。採餌の目的は自己の生命維持だが、鳥類のように自分の子を養育する動物では、雛の生命維持という目的が加わる(森 2002)。

餌の質が繁殖に与える影響として、ウミガラスでは育雛期にエネルギーや脂肪の少ない餌を与えられて育った雛の生残率が低下する(S. Wanless *et al.*, 2005)、ウミバトでは底棲魚を主に捕食する年は、底棲魚は栄養価が低いいため、繁殖成績が低下する(Litzow *et al.* 2002)、ということが報告されており、鳥類の繁殖成績は餌によって大きく影響を受ける。

カワウ *Phalacrocorax carbo* は内陸部の河川や湖沼、都会地に接した沿岸海域と多様な湿地に生息する魚食性の鳥で、コロニーという集団繁殖地を形成し(須川ら 2004)、繁殖エリアに対応して様々な餌を採餌する(Barret *et al.*, 1990)。そのため魚の資源量や回遊に大きく影響を受ける(Takahashi *et al.*, 2006)。また、カワウの餌に脂肪含有率が低いボラが多く見られた年は巣立ち雛数が少なかったことから、餌の脂質含有量と繁殖成績は関係していることが示唆されている(井上 2010)。

今回はカワウの捕食している餌の栄養価について、粗脂肪、粗タンパク質、カロリー、粗灰分を調べた。

調査地・方法

調査は 2009 年-2011 年の 1-8 月、岐阜県安八郡の揖斐川中流域で行った。

カワウは人が近付くと胃の内容物を吐き戻してくる習性があるため、それらを拾い集めることで食性のデータを得た。

栄養分析は、食性で得られた種と同じ種類の餌を捕獲し、分析した。粗脂肪はソックスレー抽出法、粗タンパク質はケルダール法、カロリーはカロリーメーターを用いて行った。

結果

食性では主な餌としてアメリカザリガニ、カワムツ、カマツカ、オイカワ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、マナズ、オオクチバスが得られた。

当日は、これらの結果とカワウの繁殖について発表します。